

2022 年度就職企業先アンケート（豊橋技術科学大学卒業生・修了生の教育成果等に関するアンケート）調査分析結果

1. 就職企業先アンケート調査方法、回収状況等について

2022 年度の調査対象については、各系で企業を 50 社以上選別する作業を軽減させるため、以下の選定の観点を設定、前回調査（2018 年度）と同数程度依頼することで対象企業を選定した。

<選定の観点>

- ・過去 5 年で 3 名以上就職している。
- ・過去 5 年で 2 名の就職でも直近 3 年のうち 2 名が就職している。
- ・過去 5 年の就職者は 1～2 名であるが、令和 3・4 年度に実務訓練学生の受入や説明会参加、前回 2018 年度に回答実績がありアンケートに積極的に協力いただけそうな企業
- ・上記企業のうち、電気・電子情報工学課程・専攻出身者の就職率が高い企業には、電気・電子情報工学系が実施するアンケート調査を送付する。

以上により、全体アンケート 250 社、電気・電子情報工学課程・専攻出身者向け 82 社、計 332 社を調査対象とし、回答は Web アンケートシステム（Google フォーム）により回収した（3 月 24 日（金）締切→5 月 12 日（金）まで期間延長）。なお、電気・電子情報工学系は前回調査（2018 年度）に引き続き、全系共通アンケート項目に独自項目を追加して依頼した。

●調査方法に係る課題・改善方策等

（課題）

アンケート項目設定等の検討を実施年度に行っていること、アンケートフォーム等の設定等にも時間を要するなど指定の時期に調査が実施できていない。前回調査の 2018 年度からアンケートを大幅に見直したこと、2022 年度調査が 2 回目ということもあり、調査実施にかかる業務が確立できていない。

（改善方策等）

これらの課題を踏まえ、次回は指針に定める時期にアンケート調査が実施できるよう、「卒業（修了）予定者アンケート／卒業生、修了生アンケート／就職企業先企業アンケート、高専カリキュラム、シラバス確認の実施時期、実施サイクルについて」に基づき、活動開始の時期を可視化し担当教職員が異動しても、アンケート調査実施年度の前年度に準備を完了できるよう、大学点検・評価委員会、教育戦略本部で実施プロセスを視える化する。

●回収状況等に係る課題・改善事項

（回収状況）

	就職企業先アンケート
調査時期	2023 年 3 月 28 日～5 月 12 日（4/28→5/12 延長）
調査方法	Web アンケート（無記名式）
回収数	82（依頼数 332）回収率 24.7%
調査主体	教育戦略本部

集計分析

教育戦略本部

依頼企業数は 332 社と目標数の 250 社（前回調査（2018 年度）より 1.16 倍増）を大きく上回っている。回収数（前回調査(2018 年度)より 1.37 倍増）、回収率（前回調査(2018 年度)より 3.7% 上昇）いずれも向上しており、企業選定の観点を設け調査対象企業を選定した効果が得られた。

（課題及び改善事項）

回収数 100 社以上とする目標については、前回調査（2018 年度）より改善されたものの目標数を下回っており、回収数の増加については課題がある。

2. 就職企業先アンケート調査結果分析（問 1～問 4）

以下の設問について、前回調査「一継続的な改善活動のためにー 2018 就職企業先及び卒業生及び修了生（社会人）アンケート調査結果分析」を参考にして分析結果をとりまとめる。

（1）問 1. 貴社・貴団体名をご記入ください。**回収状況等**

調査対象企業数は前回より 1.16 倍増

回収数は前回より 1.37 倍増／回収率は前回より 3.7% 上昇

依頼企業数は、332 社と目標数の 250 社を大きく上回っている。回収数、回収率いずれも向上し、企業選定の観点を設け調査対象企業を選定した効果が得られた。ただし、回収数 100 社以上とする目標については、前回調査（2018 年度）に引き続き下回っており、回収数の増加については課題がある。

調査方法に係る課題・改善方策等については、「1. 就職企業先アンケート調査方法、回収状況等について」のとおり。

（2）問 2. 貴社・貴団体に勤務する本学出身者の人数について

学部卒業、大学院修了のいずれも、勤務者「1～4 名」が最も多く、次いで「5～10 名」の順で、「5～10 名」では大学院修了生の勤務者が多い。

（3）問 3. 貴社・貴団体の主たる業種について

回答企業の業種について、前回調査（2018 年度）では特定の業種（建設業）の割合が高かったが、今回調査（2022 年度）では製造業が回収数の半数（約 53.7%）を超えている。本学の人材養成の目的に沿った業種からの回答が多いことから、対象企業の選定の観点を設けたことにより、就職の実態に即した回答が得られていると考えられ前回調査（2018 年度）から大きく改善できている。

（4）問 4. 貴社・貴団体の本社等の所在地・資本金・正規雇用者数について**問 4－1. 本社等所在地について、都道府県（外国の場合は国名）をご記入ください。**

前回調査（2018 年度）では愛知県（約 40%）が最も多く、次いで東京都（約 32%）の順であったが、今回調査（2022 年度）では東京都（約 42%）が最も多く、愛知県（約 27%）を逆転している。前回調査（2018 年度）より地域の偏りが減ったこと、わずかではあるが回答範囲も広がったことから、就職者の実態に合わせた対象企業の選定の観点を設けたことによる効果があったと考えられる。

問 4－2. 資本金について、ご記入ください。

- 1 5,000 万円未満 2 5,000 万円以上 1 億円未満 3 1 億円以上 3 億円未満
4 3 億円以上

資本金「5 千万～1 億」の割合（約 9%）が前回調査（2018 年度）（約 19%）より減少し、

「1億～3億」の割合（約12%）が前回調査（2018年度）（約5%）より増加している。「3億以上」は前回とほぼ同じ割合である。

問4－3．正規雇用者数について、ご記入ください。

- 1 50人未満 2 50人以上100人未満 3 100人以上300人未満
4 300人以上500人未満 5 500人以上1,000人未満 6 1,000人以上

正規雇用者数「500以上1,000未満」の割合（約22%）、前回調査（2018年度）の割合（約19%）、「1,000以上」の割合（約56%）、前回調査（2018年度）の割合（約40%）と、正規雇用者数が多い企業、特に1,000人以上の企業からの回答が増えている。（就職者の実態に合わせた対象企業の「選定の観点」を設けたことによる効果があったと考えられる）。

3．学位授与方針に掲げる知識と能力の必要性、知識と能力の身につけ度合いの評価（問5）

学位授与の方針に掲げる知識と能力の必要性、知識と能力の身につけ度合いを、前回調査（2018年度）の調査結果と比較して検証する。

- （1）問5．豊橋技術科学大学は学位授与の方針に掲げる知識と能力を身につけるため、必要な授業科目を設定した教育プログラムを編成しています。この教育プログラムを受け卒業・修了した学生と同じアンケートを用いて教育の成果を検証するため、お尋ねさせていただくものです。

問5－1 学位授与の方針に掲げる知識と能力の必要性

豊橋技術科学大学が学位授与の方針に掲げる知識と能力の必要性について、該当する番号を表の「問5－1」欄にご記入ください。

- 1 とても必要である 2 必要である 3 あまり必要でない 4 必要でない

①問5－1「とても必要である」及び「必要である」割合の合計の平均

知識と能力	2022年度調査	2018年度調査	増減
A	93%	93%	±0%
B	100%	98%	+2%
C	100%	98%	+2%
D	99%	95%	+4%

「とても必要である」、「必要である」の割合の合計は、いずれの項目も前回調査（2018年度）とほぼ同じである。

②問5－1「とても必要である」の割合

知識と能力	2022年度調査	2018年度調査	増減
A	33%	25%	+8%
B	81%	77%	+4%
C	71%	67%	+4%
D	52%	47%	+5%

・「とても必要である」、「必要である」の割合の合計は、いずれの項目も前回調査（2018年度）とほぼ同じである。

・「とても必要である」の割合は、いずれの項目も前回調査（2018年度）より高くなっている。

・「とても必要である」の割合が「必要である」より高かった項目は、前回調査（2018年

度)では、項目B及びCの2項目だったが、今回調査(2022年度)ではこの2項目に加え、項目Dの「とても必要である」の割合が約52%と「必要である」の割合より高くなっている。

・項目B及びCについては、前回調査(2018年度)と同様に「自らの考えや論点を効果的に表現し、また他者の意見や情報を的確に理解して、多様な人々と協働して目標達成に寄与できる能力を身につけている。」ことや「技術者・研究者として社会的・倫理的責任を自覚し、継続的に、自ら学修する能力を身につけている」ことを強く求められていたが、今回調査(2022年度)で「とても必要である」の割合がより高くなっており、より強く求められていることが確認できる。

また、項目Dの「とても必要である」の割合も50%を超えていることから、企業は「自然科学および技術科学分野の専門技術に関する知識を修得し、それらを統合的に活用して課題を理解・解決できる実践的・創造的能力を身につけていること」も強く求めている。企業が本学の学位授与の方針に掲げる知識と能力全般について、必要性が高いと考えている割合が高くなっていることが、今回調査(2022年度)で確認できる。

問5-2 豊橋技術科学大学が学位授与の方針に掲げる知識と能力を、卒業生・修了生はどの程度身につけているかについて、該当する番号を表の「問5-2」欄にご記入ください。

- 1 よく身につけている 2 身につけている
3 あまり身につけていない 4 身につけていない

①問5-2「よく身につけている」及び「身につけている」割合の合計の平均

知識と能力	2022年度調査	2018年度調査	増減
A	94%	80%	+14%
B	99%	92%	+7%
C	100%	77%	+23%
D	94%	87%	+7%

・「よく身につけている」、「身につけている」の割合の合計は、全ての項目で前回調査(2018年度)より高くなっており、全ての項目で90%を超えている。

②問5-2「よく身につけている」の割合

知識と能力	2022年度調査	2018年度調査	増減
A	27%	7%	+20%
B	55%	22%	+23%
C	55%	29%	+26%
D	47%	17%	+30%

・前回調査(2018年度)では、「身につけている」の割合がいずれの項目についても、「よく身につけている」の割合より圧倒的に高かったが、今回調査(2022年度)では、B及びCの項目は大きく逆転し、Dについては、ほぼ同じ割合となっている。

・本学出身者は、全ての項目について学位授与の方針に掲げる知識と能力を身につけていると前回調査(2018年度)より高く評価されている。項目A及びCは前回調査(2018年度)より特に高くなっており、項目C「技術者・研究者として社会的・倫理的責任を自覚し、自ら学習する能力を身につけている」の「よく身につけている」、「身につけている」の割合の合計は、100%と前回調査(2018年度)(約77%)からさらに高く評価されている。

・項目A「地球的な視点から多面的に物事をとらえるグローバルな感性を持ち、人間と自然との共生について考える広い教養を身につけている」の「よく身につけている」割合（約27%）についても、前回調査（2018年度）（約7%）より大幅に高くなっているが、他の項目と比較すると「身につけている」割合（約67%）が依然として高いことから、改善が必要な事項と考える。

4. 社会人として必要と思われる能力・資質の評価（問6）

社会人として必要と思われる能力・資質の身につけている割合を、前回調査（2018年度）の調査結果と比較して検証する。

（1）問6. 次の表に掲げる能力・資質は、社会人基礎力等に基づき、社会人として必要と思われる能力を類型化したものです。貴社・貴団体における実務上の観点に照らしてご記入ください。

問6－1. 豊橋技術科学大学の卒業生・修了生が次の表の能力・資質を身につけているかについて、ご記入ください。

- 1 よく身につけている 2 身につけている
3 あまり身につけていない 4 身につけていない

①問6－1「よく身につけている」及び「身につけている」割合の合計の平均

社会人として必要と思われる能力	2022 年度調査	2018 年度調査	増減
1. 文章表現力	96%	84%	+12%
2. 計算力	99%	97%	+2%
3. 基本 IT スキル	94%	89%	+5%
4. 主体性	98%	87%	+11%
5. 働きかける力	93%	72%	+21%
6. 実行力	99%	90%	+9%
7. 課題発見力	98%	89%	+9%
8. 計画力	97%	87%	+10%
9. 創造力	92%	82%	+10%
10. 発信力	92%	77%	+15%
11. 傾聴力	98%	87%	+11%
12. 柔軟性	93%	80%	+13%
13. 状況把握力	98%	89%	+9%
14. 規律性	100%	89%	+11%
15. ストレスコントロール力	93%	80%	+13%
16. 専門知識	98%	95%	+3%

前回調査（2018年度）では、「よく身につけている」、「身につけている」の割合の合計は、16項目中、90%以上が3項目、80%以上が11項目、70%以上が2項目だったが、今回調査（2022年度）では、16項目の全てが90%以上と高い評価を得ている。全ての項目で増加しており「5. 働きかける力」が21%増と最も増加の割合が高く、10%以上割合が増加した項目は10項目である。

「4.主体性」、「6.実行力」、「7.課題発見力」は、社会人基礎力の項目でも早期に身につけていることが求められる項目であるが、「よく身につけている」、「身につけている」の割合の合計は98～99%と高い評価を得ている。

②問6－1「よく身につけている」の割合

社会人として必要と思われる能力	2022 年度調査	2018 年度調査	増減
-----------------	-----------	-----------	----

1. 文章表現力	40%	12%	+28%
2. 計算力	54%	30%	+24%
3. 基本 IT スキル	37%	22%	+15%
4. 主体性	49%	27%	+22%
5. 働きかける力	38%	10%	+28%
6. 実行力	46%	24%	+22%
7. 課題発見力	50%	24%	+26%
8. 計画力	46%	20%	+26%
9. 創造力	35%	12%	+23%
10. 発信力	30%	9%	+21%
11. 傾聴力	44%	19%	+25%
12. 柔軟性	44%	15%	+29%
13. 状況把握力	49%	17%	+32%
14. 規律性	59%	29%	+30%
15. ストレスコントロール力	36%	15%	+21%
16. 専門知識	61%	29%	+32%

前回調査（2018 年度）では、「よく身につけている」の割合は、16 項目中、30%以上が 1 項目、20%以上が 7 項目、10%以上が 7 項目、10%未満 1 項目だったが、今回調査（2022 年度）では、60%以上が 1 項目、50%以上が 3 項目、40%以上が 7 項目、30%以上が 5 項目と全ての項目で増加している。

「13.状況把握力」、「14.規律性」、「16.専門知識」が 30%以上と最も増加の割合が高く、20%以上割合が増加した項目は 12 項目である。

問 6－2. 次の表の能力・資質のうち、社会人(豊橋技術科学大学の卒業生・修了生に限らない)にとって必要とお考えになるものについて、ご記入ください。

1 必要である 2 どちらかというと必要である

3 あまり必要でない 4 必要でない

①問 6－2 「必要である」の割合

社会人として必要と思われる能力	2022 年度調査	2018 年度調査	増減
1. 文章表現力	81%	74%	+7%
2. 計算力	64%	55%	+9%
3. 基本 IT スキル	53%	47%	+6%
4. 主体性	94%	74%	+20%
5. 働きかける力	91%	79%	+12%
6. 実行力	93%	85%	+8%
7. 課題発見力	90%	77%	+13%
8. 計画力	87%	79%	+8%
9. 創造力	74%	70%	+4%
10. 発信力	90%	65%	+25%
11. 傾聴力	88%	70%	+18%
12. 柔軟性	83%	72%	+11%
13. 状況把握力	85%	75%	+10%
14. 規律性	94%	70%	+24%
15. ストレスコントロール力	81%	65%	+16%

16. 専門知識	61%	70%	-9%
----------	-----	-----	-----

前回調査（2018 年度）と同様に「必要である」、「どちらかという必要である」の割合の合計は、ほぼ全ての項目において、100%または 100%に近い高い割合を示している。

前回調査（2018 年度）では、「必要である」の割合は、16 項目中、80%以上が 1 項目、70%以上が 11 項目、60%以上が 2 項目、50%以上が 1 項目、50%未満が 1 項目だったが、今回調査（2022 年度）では、90%以上が 6 項目、80%以上が 6 項目、70 以上が 1 項目、60%以上が 2 項目、50 以上が 1 項目と、全ての項目で「必要である」とする割合が高まっている。「10.発信力」25%増、「14.規律性」24%増、「4.主体性」20%増と増加の割合が高く、「必要である」の割合も 90%を超えている。一方「16.専門性」については、「必要である」の割合は低くなっている。汎用的なスキルをより身につける教育プログラムを検討する必要があると考える。

「必要である」の割合が 90%を超える項目

「4.主体性」、「5.働きかける力」、「6.実行力」、「7.課題発見力」、「10.発信力」、「14.規律性」

5. 本学の人材像と企業等が求める人材像との合致の度合いの評価（問 7）

本学が育成する人材像と企業等が求める人材像との合致の度合いの割合を、前回調査（2018 年度）の調査結果と比較して検証する。

問 7. 豊橋技術科学大学では、学部・博士前期課程一貫教育により、技術科学の教育を通じて、「豊かな人間性」、「グローバルな感性」及び「自然と共生する心」を併せ持つ先導的な実践的・創造的技術者・研究者の育成を目的としています。

また、グローバル化教育を推進するにあたっては、グローバルな課題を発見し、分析・解決するための俯瞰的な構想・設計力を有し、具体的なものづくりを主導できる高い技術力と科学的素養に裏づけられた能力を備える上級技術者を育成することを目的としています。

本学の人材像は、貴社・貴団体が求める人材像とどの程度合致するかについてご記入ください。

1 とても合致する 2 概ね合致する 3 あまり合致しない 4 合致しない

①「とても合致する」及び「概ね合致する」割合の合計の平均

人材像との合致	2022 年度調査	2018 年度調査	増減
とても合致する、概ね合致するの割合	100%	97%	+3%

②「とても合致する」、「概ね合致する」の割合

	2022 年度調査	2018 年度調査	増減
とても合致する	63%	32%	+31%
概ね合致する	38%	65%	+27%

「とても合致する」の割合が 63%と前回調査（2018 年度）より高く、「とても合致する」、「概ね合致する」の割合の合計は、100%である。卒業生・修了生が本学において身につけた知識・能力の度合いが高くなっていることから、とても合致するの割合が高いと考えられる。

6. 学生時代に身につけておいて欲しい能力や資質、経験しておいて欲しいこと等の評価（問 8）

卒業生・修了生が貴社・貴団体に採用される場合において、学生時代に身につけておいて欲しい能力や資質、経験しておいて欲しいこと等を、前回調査（2018 年度）の調査結果と比較して検証

する。

問 8. 今後、豊橋技術科学大学の卒業生・修了生が貴社・貴団体に採用される場合において、学生時代に身につけておいて欲しい能力や資質、経験しておいて欲しいこと等を、「問 8」欄に自由にご記入ください。(自由記述)

前回と同様に幅広いコミュニケーション能力を身につけて欲しいという要望が最も多い。主体性、実行力、働きかける力、課題解決力、チームワーク力など 問 6-2 で「必要である」と回答した割合の項目に関する記述が多い。

これらの能力や資質を身につけるための授業科目、正課、正課外の教育プログラムがどの程度整備されているか、今後どのように整備するかを、卒業（修了）予定者アンケート、卒業生・修了生アンケートの結果も踏まえ検証する必要がある。

7. 本学卒業生・修了生の採用に関する評価（問 9）

問 9. 豊橋技術科学大学の卒業生・修了生について、どのような点を評価して採用していただいているか、「問 9」欄に自由にご記入ください。(自由記述)

問 6-2 の規律性の高い評価を軸にして、評価の高い項目に関する記述が多い。入社当初から専門的知識を有していること、主体性、課題解決力の高さ、前向きに物事を進める点などが高く評価されている。前回調査（2018 年度）と比較すると、より具体的に複合的に評価している記述が多い。

8. 豊橋技術科学大学全般に関する評価（問 10）

問 10. 教育を含め、豊橋技術科学大学全般にわたってご意見等ございましたら、「問 10」欄に自由にご記入ください。(自由記述)

前回調査（2018 年度）と比較すると、より採用に直結したいというストレートな記述が多い。就職企業として捉えられていない学生が多いことへの対応、地元企業への就職への対応などについて検討する必要がある。

9. アンケート全般に関する評価

今回調査（2022 年度）は、本学の全学グローバル化教育カリキュラムの適用を受けた卒業生・修了生が就職している割合がほとんどであること、記述式のコメントも具体的な事項が多いことから、より実態を把握できたと考えられる。また、前回調査（2018 年度）では、一部の特定業種からの回答が集中していたが、今回は製造業が最も多く、この点についてもより実態を反映した回答が多いと考えられる。